

★★★★
第79期
中間報告書

2023 Business Report

2023年4月1日 ▶ 2023年9月30日



代表取締役社長 青木 邦博

経営理念

環境・社会の変化を迅速かつ的確に捉え、その変化に伴うニーズに即応する技術開発を通じて、
環境・社会に貢献するということをミッションとしています。
その基本に、コンプライアンスの徹底と、品質向上・品質管理に尽力してまいります。

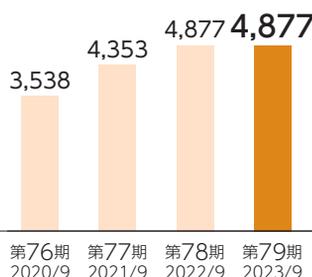
ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、当社グループ第79期第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）の
事業の概況をとりまとめましたので、ご報告申し上げます。
株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2024年3月期 第2四半期連結業績ハイライト
売上高
4,877 百万円

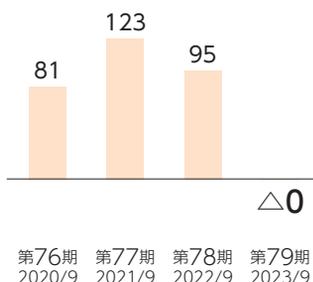
 前年同期比 **+0.0%**

(単位：百万円)


営業利益又は営業損失(△)
△0 百万円

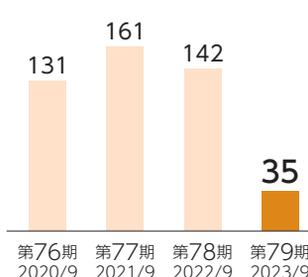
 前年同期比 **-**

(単位：百万円)


経常利益
35 百万円

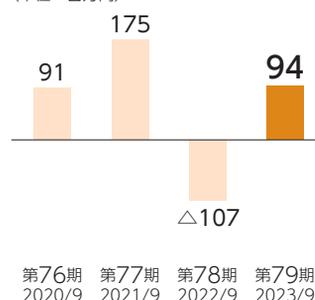
 前年同期比 **△75.4%**

(単位：百万円)


**親会社株主に帰属する
四半期(当期)純利益又は純損失(△)**
94 百万円

 前年同期比 **-**

(単位：百万円)


事業の概況

当第2四半期連結累計期間における当社グループに関連する事業環境におきましては、設備投資においては持ち直しの動きが続き、公共投資も底堅い動きを維持しておりますが、電線事業およびポリマテック事業の業界におきましては、材料価格やユーティリティ価格の高騰を受け厳しい状況が続いております。また、電熱線事業におきましては、自動車関連では回復傾向がみられましたが、未だに需要低迷は続いており、加えて製造分野での過剰在庫の調整も続いている状況です。

このような状況の中、当社グループにおきましては、ESG（環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance)）を経営方針の中核に据え、4S（新）運動

（新分野開拓・新製品創出・新顧客増強・新グローバル戦略推進）を推進し中長期的、持続的な成長を目指しております。また、原材料・サプライチェーンの見直しによるコストダウン、工場の生産性向上、品質の維持による生産力強化にも取り組んでおります。

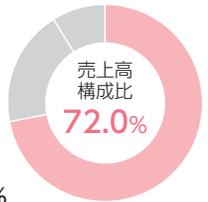
その結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は4,877百万円（前年同期比0.0%増）、営業損失は0百万円（前年同期は営業利益95百万円）、経常利益は35百万円（前年同期比75.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は94百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失107百万円）となりました。

事業別の概況

電線

製品紹介 業界トップシェアを誇る[キャブタイヤケーブル]

600V以下の移動用電気機器、配線などに使用されるキャブタイヤケーブルを主製品とし、その他多目的産業用キャブタイヤケーブル、溶接用ケーブルなど、産業用電線なら三ツ星という定評をいただいております。



売上高 **3,513**百万円 前年同期比 **+5.3%**

活動報告

当事業の主要な市場である建設・電販は小幅な増加にとどまり、加えて銅建値が高値で推移していることや、原材料やエネルギー価格の高騰、人手不足の継続といった懸念材料は残ったままであり、予断を許さない状況でありました。

このような状況の中、展示会の開催なども増加したことで対面での営業活動が活発となり、案件獲得などによりゴム電線、プラスチック電線ともに販売量は増加しました。国内銅価格は昨年より高値の1,264千円/トン(期平均)で推移し、売上高は3,513百万円となりました。

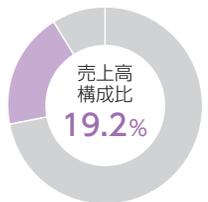
利益面におきましては、銅価格の変動に伴う価格改正、高付加価値製品の販売強化、継続的な経費削減、生産性向上、材料関係のコストダウンなどに取り組みましたが、市場価格の下落、為替の影響などにより営業利益は14百万円となりました。



ポリマテック

製品紹介 オフィスから暮らしまで、幅広いニーズと市場

住宅建材からOA機器分野、産業資材分野まで、省コスト仕上げの高品質により高い評価を得ております。木材複合樹脂やプラスチック廃材を再生利用した製品は、これからの環境対応というテーマから、バイオプラスチックの製品化も注目されております。



売上高 **934**百万円 前年同期比 **△0.4%**

活動報告

当事業の主力製品である住宅関連部材に関して新設住宅着工戸数の減少の影響を受け、厳しい状況で推移しました。

このような状況の中、営業面では新規案件獲得に向けて、住宅建材以外の業界への積極的な営業活動を行いました。特に高機能チューブ製品の海外向け製品の落ち込みが大きく、売上高は934百万円となりました。

製造面では生産量が減少する中、生産性の改善を行い、工程中不良は前年同期比22%減と改善されました。しかし、昨今の人件費の上昇に加え、人材確保が困難な状況となっていることから、さらなる生産性の改善が必要となります。

利益面におきましては、今年6月より取り組んでおります在庫削減の成果が出始めており、在庫量を一定の水準で管理し続けておりますが、販売量と生産量の減少の影響を受け、営業損失は26百万円となりました。



電熱線

製品紹介 伸線・圧延技術力を活用した事業展開

どこの家庭にもあるヘアドライヤーやアイロン、冷蔵庫、テレビといった家電製品向け製品のほか、自動車のシガレットライターや高圧ケーブル、電子機器向けの製品を開発するなど、幅広い分野での活用が期待されます。



売上高 **429**百万円 前年同期比 **△28.8%**

活動報告

当事業に関連する経営環境におきましては、自動車関連は回復の兆しが見えつつあるものの、家電関連、産業機器関連、住設関連は中国を中心とした世界経済の失速感からの需要低迷が続いております。加えて、エンドユーザーおよび流通、部品メーカーなど各段階での過剰在庫の調整が続いているとともに、在庫消化の足取りも重い状況となっております。そのような状況を受け、売上高は429百万円となりました。

利益面におきましては、受注減少による原価高や中国景気の減速による需要減が意識されたことによりニッケル価格が下落した影響を受け、営業利益は12百万円となりました。



『Techno-Ocean2023』への出展

2023年10月5日（木）～7日（土）の3日間、神戸国際展示場にて開催された海洋の科学技術に関する国際コンベンション『Techno-Ocean2023』に出展いたしました。Techno-Oceanは、1986年に第1回が開催されて以降、隔年ごとに開催され、今回で19回目を迎えます。本開催では「海をいかす」をテーマに環境問題、海底資源開発、食料、再生可能エネルギー、水中ロボットなど幅広いトピックが取り上げられました。約90社が出展し、3日間で延べ7,877名の方が来場され、持続可能な海洋利用のあり方を議論する場となりました。

当社ブースでは、海洋土木関連に対する最新の取り組み事例を紹介し、多くの来場者様から興味・関心の声をいただきました。

皆様より頂戴した様々なご意見を参考にし、製品・技術開発や情報発信に努めてまいります。



ネットワーク



本社／大阪支店



株式会社河南伸銅所



九州支店



東京支店（電線事業）
シルバー鋼機株式会社



東京支店（ポリマテック事業）

名古屋支店



工場（電線事業：滋賀県甲賀市）



工場（ポリマテック事業：大阪府羽曳野市）



MITSUBOSHI PHILIPPINES
CORPORATION

会社の概要 (2023年9月30日現在)

商号 株式会社三ツ星
設立 1947年3月24日
本社 大阪市中央区本町一丁目4番8号
エスリードビル本町5階
資本金 1,136,518千円
従業員数 (連結)258名(80名)
(注) 従業員数は就業員数であり、パートおよび嘱託社員は()内に6ヶ月間の平均人員を外数で記載しております。
事業内容 電線、樹脂成形品、高機能チューブ、電熱線の製造、販売

役員 (2023年9月30日現在)

代表取締役社長 青木 邦博
取締役 (監査等委員) 渡邊 雅之 (社外)
取締役 (監査等委員) 加藤 正憲 (社外)
取締役 (監査等委員) 吉 永久三 (社外)

(注) 1. 取締役 (監査等委員) 渡邊雅之氏、加藤正憲氏および吉永久三氏は、社外取締役であります。
2. 取締役 (監査等委員) 渡邊雅之氏、加藤正憲氏および吉永久三氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	毎年6月		
基準日 (定時株主総会)	毎年3月31日	基準日 (期末配当)	毎年3月31日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	電話照会先	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00 (土・日・祝日を除く)
インターネットホームページURL	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/		
公告方法	電子公告により行います。 ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。 当社の公告掲載URLは次のとおりです。 https://www.kk-mitsuboshi.co.jp		
上場金融商品取引所	東京証券取引所スタンダード市場	証券コード	5820

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

株式の状況 (2023年9月30日現在)

発行可能株式総数 11,400,000株
発行済株式の総数 3,442,894株 (自己株式357,071株を除く。)
株主数 1,985名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
ミツウ樹脂工業株式会社	187,800	5.45
本多 敏行	164,100	4.77
アダージキャピタル有限責任事業組合 組合員 株式会社シンシア工務店	163,800	4.76
有限会社杉山製作所	144,000	4.18
津田電線株式会社	115,800	3.36
有限会社ツカモト	110,500	3.21
アダージキャピタル有限責任事業組合	77,100	2.24
西崎 ひとみ	69,135	2.01
有限責任事業組合ASIA PLASTIC VICTORY	60,600	1.76
上田 真由美	58,300	1.69

(注) 1. 上記のほか、当社が自己株式357,071株を保有しております。
2. 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。



ホームページアドレス <https://www.kk-mitsuboshi.co.jp>



この冊子は、FSC® 認証紙と、環境に優しい植物油インキを使用して印刷しています。

ユニバーサルデザイン (UD) の考えに基づいた見やすいデザイン
の文字を採用しています。